
インフォメーション 目次

助成事業および公募情報	(3 件)
特許出願情報	(3 件)



■ 01 助成事業および公募情報 (3 件)



(1) 中小企業庁 山梨県中小企業団体中央会
平成29年度補正「ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金」
<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/mono29>

中小企業・小規模事業者が取り組む生産性向上に資する革新的サービス開発・試作品開発・生産プロセスの改善を行うための設備投資等の一部を支援します

○制度概要 (全国中央会)

http://www.chuokai.or.jp/hotinfo/29mh_koubo_201802.html

○制度詳細 (山梨県中小企業団体中央会)

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/mono29>

◆公募期間 2018/2/28～2018/4/27

◆補助対象者

山梨県内に開発拠点を有する中小企業者に限ります。

◆公募期間

・公募開始：平成30年 2月28日(水)

・締切：平成30年 4月27日(金) [当日消印有効]

◆ 公募に関する問い合わせ窓口：

山梨県地域事務局 (山梨県中小企業団体中央会)

お問い合わせ時間：10:00～12:00、13:00～17:00

月曜～金曜 (祝日除く) TEL 050-6861-9944

(2) JST

研究成果最適展開支援プログラム A-STEP 課題提案募集

<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/index.html>

平成30年度において、A-STEPでは機能検証フェーズ(旧：地域産学バリュープログラム)／産学共同フェーズ(旧：ステージⅡ)／企業主導フェーズ(旧：ステージⅢ)の新規課題の公募を実施します。大学から企業へのご相談がありましたらご協力をお願いします。また、企業様から解決したい課題が必要です。ぜひ課題をお持ちの企業様は該当研究者もしくは大学コーディネータまでご連絡ください。

◎平成30年度公募実施状況 につきましては 下記 URL を参照ください。

<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/index.html>

(3) 第101回(平成30年度第1次)新技術開発助成について

http://www.sgkz.or.jp/download/newtech/download.html?sscl=ZD_top_newtech

第101回(平成30年度第1次)新技術開発助成の募集要項、申請書等を公開中です。受付期間は、4月1日から4月20日(郵送物は締切日消印有効)です。

<http://www.sgkz.or.jp/project/newtech/>

■

■ 02 特許出願情報 (3件)
～山梨大学が出願した最新特許情報をご紹介します～ ■

本学整理番号 : P18-005
出願番号 : 特願 2018-019985
出願日 : 2018/02/07
発明の名称 : セリ科植物の種子を高効率で発芽させる方法、
そのためのキット及びその製造方法
出願人 : 国立大学法人山梨大学
代表発明者 : 大槻隆司
発明の概要 : 漢方の柴胡の原料であるセリ科のミシマサイコを
人工栽培するためには無菌状態で発芽させ株分けをする
必要があるが、発芽率が4～5%と非常に低かった。
本発明は、その発芽率を向上させる方法である。

本学整理番号 : P18-006
出願番号 : 特願 2018-024902
出願日 : 2018/02/15
発明の名称 : 掘削感付与装置、ジョイント構造物、掘削
感付与方法、及び掘削感付与プログラム、
並びに技能評価装置、技能評価方法、及び
技能評価プログラム
出願人 : 国立大学法人山梨大学
発明者 : 野田善之
発明の概要 : 手術のトレーニング用シミュレータが知られているが、
骨や歯を掘削・切除するような衝撃に耐えるシミュレー
ターはまだない。
本発明は、ノミを金槌で叩いて骨や歯を掘削・切除する
ような訓練をするための、剛性がたかくしかも臨場感の
ある人工現実感を与えることができる装置の発明である。

本学整理番号 : P18-007
出願番号 : 特願 2018-025389
出願日 : 2018/02/15
発明の名称 : 画像処理方法、画像処理プログラム、及び
表示装置
出願人 : 国立大学法人山梨大学
発明者 : 豊浦正広
発明の概要 : 色覚障がい者は、例えば信号の青と赤の区別が

困難であるなど日常生活の不便も多い。それを解決するために区別が困難な色を別の色に変換する方法が知られているが、例えば空の青が全く違う色になってしまうなど違和感がある場合が多い。
本発明は、色覚障がい者にとって違和感が少ない色変換方法の発明である。TV やモニター、HMD などへの応用が考えられる。



- 1) このメールの内容は、提供された会員様限りでご使用下さい。
- 2) メールの内容については国立大学法人山梨大学が著作権を有します。

